



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 182 July. 1. 2025

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



『エベレスト街道秋景』杉田 博 画 左よりエベレスト・ローツェ・アマダブラム

(詳細は本文 P15 参照)

目 次

○令和7年度支部通常総会	今津英一朗	2	○イグルー講習会に参加して	大橋博子	16
支部長、新役員の挨拶			○猿投の森づくりの会総会開催	和田豊司	17
○令和6年度事業報告		4	○天野氏追悼		18
○令和7年度事業計画/役員		6	○名作の舞台を訪ねて(5)	村中征也	19
○令和7年度組織図		8	○東海支部とインド・ヒマラヤ	沖 允人	21
○日本山岳会ユースクラブプロ			○山行委員会だより 千葉泰丈	村井智恵	22
ジェクトにご支援のお願い		9	○登山用具あれこれ⑩	千葉泰丈	23
○第11回夏山フェスタ開催	服田康宏	10	○東海岳人列伝(24)	西山秀夫	24
○敗退の厳冬期単独北アルプス			○委員会報告 亀の会		27
主脈全山縦走	草野駿希	11	○同好会コーナー スケッチ		27
○「アルパインライト」設立	高橋玲司	13	○支部友コーナー	田中 進	29
○東海支部主催 全国ボラン			○会務報告	今津英一朗	30
ティア支援登山集会開催	前田隆久	13	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗	32
○2025年春のボランティア委員会	前田隆久	14	○INFORMATION	星 一男	
○杉田画伯 白寿展	沖 允人	15	○編集後記		

令和7年度支部通常総会 支部長・新役員の挨拶

総務委員会

令和7年度支部通常総会

5月11日(土)東海支部通常総会がOMCビル4F講堂で開催された。

定刻午後3時過ぎに今津総務委員長が、開会の辞を行ない総会が始まった。最初に高橋支部長が令和6年度一年を振り返り、令和7年度に更なる飛躍を遂げるための新事業について抱負を述べた。(次頁支部長挨拶文参照)

最初に、高橋支部長に議長を委嘱し最初に定足数の確認で総務委員長からの「本総会は支部在籍者318名の1/2以上で成立する。現在は委任状を含めた189名の出席があり、総会は成立している」の報告により、議事に入った。

服田副支部長から、第一号議案として、平令和6年度の事業報告と、奥山会計担当より決算報告が行なわれ、市川監事の会計監査報告の後、拍手をもって承認可決された。

引き続き第2号議案の令和7年度の役員案、組織案及び第3号議案の事業計画を前田副支部長が、予算案を奥山会計担当が行ない、活発な質疑応答が行なわれたがこれも満場一致で可決された。その後、前年度より審議事項として提案されていた、公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)への出資金の拠出が審議され、賛成多数で承認可決された。

続いて、今津総務委員長より、東海支部ホームページのリニューアル化についての現状説明と、東海支部報は次年度よりデジタル化を一部取り入れていく考えを示した。

10分間の休憩の後、報告会と講演会が同室で行われ

た。最初は、支部員の草野駿希氏の「厳冬期単独北アルプス主脈全山縦走」報告があった。(P11, P12参照) 続いて本部常務理事の平川陽一郎氏より特別講話が行なわれた。その中で、東京支部が発足した経緯と今後の山岳会の在り方について、また、会員減の現状を打開する私案が提示された内容であった。



服田副支部長



総会会場

第2部は、会場を上前津 シルクロードに移し、午後7時より総務委員会担当の懇親会となった。

今津総務委員長の司会で、高橋支部長の挨拶に続いて、尾上常任評議員の乾杯の音頭で懇親会が始まり、講演をいただいた平川陽一郎氏を囲んでの和気藹々のムードの中で大いに盛り上がった。



前田副支部長

午後8時40分高橋支部長の中締めの挨拶と一本締めで散会となった。

支部長あいさつ

支部長 高橋 玲司

令和7年度がスタートするにあたりご挨拶をさせていただきます。

昨年度を振り返りますと、非常に多くの活動を実施していただきました。

まずは、星 一男隊長率いる第15次インドヒマラヤ隊(メラック峰6481m)の初登頂成功は大きなトピックです。沖総隊長、星隊長の熟練コンビのおかげだと思います。高所順応もうまくいき、2名の登頂は大きな成果です。長年の継続は大きな力となっていると感じています。

支部の根幹となる山行委員による山行企画の実施、社会的弱者に対する各種のボランティア委員会による支援登山、第8期を迎えた登山学校、遭難防止活動を実践する遭難対策委員会、安全登山の啓発に向けた各種取り組みを実施されている技術向上委員会、初心者入門から始め一大勢力となった支部友委員会、猿投山で活発に活動する森づくりの会、自然保護委員会、会員の趣向を鑑み活動を行うアルパインクラブ、トレッキングクラブでの活動、支部友会中心として会員増強の原動力となる夏山フェスタの実施、東海学生山岳連盟と東海支部がコラボした御在所フェスティバルの実施、高齢者に向けた亀の会の活動など数多くの事業を熟していただきました。

さて昨今の支部運営面では、当初掲げた二つの課題は残念ながら余り改善されませんでした。会員数の減少と財政の悪化です。私が支部長に就任の会員数は、8年前ですが364名でした。昨年度は、327名で今年度311名です。傾向としては入会人数も多いのですが退会も多い状態が続く、特に会員番号の若い方の退会が目立ちます。退会に歯止めをかけるにはどうしたら良いか。何と言っても

支部の活性化に尽きます。それには、出来るだけ委員会に属してもらい委員会活動に従事してもらう。委員会同士の横の交流を盛んにする。他支部や本部との交流も重要です。

もう一つは財政の健全化です。今年度も支部の赤字傾向は続いており、抜本的な見直しも図らなければなりません。郵送費と印刷費の高騰から本部も電子化に舵を切ります。支部報の電子化も検討する時期を迎えたと言えます。今までは、何とかやってきたのと、寄付や収益事業もあり、支部にも余力もありましたが、今後はそうはいきません。支部の収支バラスを抜本的に見直し、持続可能な支部を目指しましょう。

そうした点からも今年度は重要な年度になると思います。より楽しく支部ライフを充実できるような支部を皆さんと作っていききたいと思います。皆さんの英知を是非お寄せください。

新任挨拶

東海学生山岳連盟 委員長 諸岡 晴陽

こんにちは、東海学生山岳連盟の新委員長の諸岡晴陽です。出身は、愛知学院大山岳部です。よろしくお願いします。今年のゴザフェスの運営などをしてきます。また学生連盟での様々な活動を活発にできるように努めていきたいです。

今年1年間よろしくお願い致します。



東海支部令和6年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業（公-Ⅲ）		
毎月第3 土曜日開催	延べ77名参加 猿投の森自然観察会	猿投の森づくりの会
毎月第1 土曜日開催	せと環境塾とのタイアップ講座 7回	猿投の森づくりの会
随時開催	森の研修会（わいがや講座）3回実施	猿投の森づくりの会
通年	森の調査（プロット調査、標本木の胸高直径調査）	猿投の森づくりの会
11～3月	なごや環境大学とのタイアップ講座 3回	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業（公-I）		
11月	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟・支部
10月	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
11月	親と子のふれあい登山教室（尾高山）	ボランティア委員会
11月	幼稚園児の森体験（森の探検隊）	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業（公-I）		
6月	夏山フェスタ	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第8期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
3月	イグルー講習会の開催	技術向上委員会
(4) 事故防止事業（共-I）		
通年	メール・FAX（書面）による登山届の提出の促進 ハイグレード登山計画審査	遭難対策委員会
随時	チェンソー安全講習受講（受講者2名）	猿投の森づくりの会
随時（年2回）	安全登山啓発のための情報「安全登山教室」を発信	技術向上委員会
11月	「リスク軽減につながる登山計画の立て方、読み込み方」講習会の開催	技術向上委員会・登山学校
随時（8回）	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会
8、11、3月	気象講習会（3月）、装備講座（夏8月・冬11月）の開催	遭対・登山学校
(5) 山岳環境保全事業（共-Ⅲ）		
通年実施	12回延べ354名参加 猿投の森の環境林整備	猿投の森づくりの会
下半期実施	6回延べ35名参加 東大演習林の間伐	猿投の森づくりの会
通年	7回延べ51名参加 JAC山桜フィールド整備 炭作り	猿投の森づくりの会
随時	4回実施 植生等保護作業（保護処置作業・蜂トラップ等）	猿投の森づくりの会
通年 6回実施	林道整備（沿道草刈・側溝・路面整備・枯死木処理など）	猿投の森づくりの会
通年 7回実施	せと環境塾（豊かな自然、自然循環を理解。瀬戸市の講座）	猿投の森づくりの会
4月	岐阜県土岐市で氷河期からの希少植物シデコブシ観察	自然保護委員会
5月～10月	（定点カメラ野生動物撮影）モニタリング1000の動物調査	環境省の委嘱
		自然保護委員会
8月	愛知県（新城市作手地区）高層湿原の現地踏査	自然保護委員会
9月	猿投山の最深部、矢上山路川を数年ぶりの遡行調査	自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業（公-I）		
5月	春のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
11月	秋のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
年5回実施	視覚障がい者との親睦登山（ひまわり山行）	ボランティア委員会

期 日	内 容	担 当
Ⅱ. 共益事業		
年 6 回	支部友ミーテング	支部友会
毎月 3～5 回	支部友山行 計画 59 回 実施 40 回 参加人数延べ 233 人	支部友会
年間 60 回程度	支部定例山行 計画 49 回 実施 36 回 参加人数延べ 219 人	山行委員会
毎月 1 回	亀の会 月例山行 実施 9 回 参加人数延べ 181 人	亀の会
随時	自主企画山行 実施 9 回 参加人数延べ 161 名	亀の会
随時	歩こう会 実施 4 回 参加人数延べ 66 名	亀の会
毎年 1 回	お祝い山行 実施 1 回 参加人数延べ 25 人	
月 1 回	定例山行 計画 1 0 回 実施 4 回 参加人数 延べ 1 9 人	トレッキングクラブ
年間実績	春合宿 3 回、夏合宿 3 回、冬山訓練、合宿 6 回	アルパインクラブ
月 1 回	委員会	写真展実行委員会
10・11・3 月	写真撮影山行 3 回	写真展実行委員会
11 月	写真教室 1 回	写真展実行委員会
2/25～3/2	第 1 9 回東海岳人写真展開催	写真展実行委員会

その他活動

支部報編集委員会

支部報 年 4 回発行 NO.177 (4 月) NO.178 (7 月) NO.179 (10 月) NO.180 (1 月)

総務委員会

支部ガイド 2024 年 7 月発行、常務委員会 毎月第 4 水曜日

支部長、副支部長会議 毎月第 3 木曜日、支部通常総会 2024/5/12 開催

通年 メルマガ「東海支部ガイド」配信

デジタルメディア

通年 支部山行申込システムの管理

通年 ホームページによる情報発信

図書

通年 支部蔵書紹介および蔵書管理 蔵書受け入れ

装備

通年 装備委員会で共同装備などの管理および装備講習会の実施

海外登山委員会

第 1 5 次インド・ヒマラヤ登山隊 未踏峰 (Merak 峰 6481m) 初登頂

その他

日本山岳会百二十周年事業「山岳古道調査」 調査報告書提出

令和7年度事業計画

期 日	内 容	担 当
I. 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業 (公-III)		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～9月	森の研修会(緑陰講座)	猿投の森づくりの会
通年	わいがや講座(環境、自然、生物多様性、SDGsの研修)	猿投の森づくりの会
年1回	森の調査(プロット調査など)	猿投の森づくりの会
11月	森づくり体験(法人デー)	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業 (公-I)		
年2回	SON愛知・山岳会と一緒に登山(知的障がい者との登山)	ボランティア委員会
年2回	たんぽぽ登山(身柄付き補導委託登山)	ボランティア委員会
随時	少年院の少年との登山	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル(9/27, 28)	東海学生山岳連盟・支部
10・11月	親と子のふれあい登山教室(自由ヶ丘幼稚園児との登山)	ボランティア委員会
11月	森の探検隊(幼稚園児森林体験) 猿投の森	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業 (公-I)		
5月	夏山フェスタの主催協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第9期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業 (共-I)		
通年	メールによる登山届の提出の促進	遭難対策委員会
随時	チェーンソー・刈り払い機・取り扱い訓練	猿投の森づくりの会
随時	チェーンソー取り扱い安全講習 受講促進	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報提供と、視野拡大のための講演会・講習会	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会
随時	山の天気講座(春)、装備講座(夏・冬)の開催	遭対・登山学校委員会
(5) 山岳環境保全事業 (公-III)		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備(炭焼き体験、シイタケ栽培等)	猿投の森づくりの会
通年	林道整備(沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会
10月～3月	なごや環境大学 タイアップ講座	猿投の森づくりの会
随時	揖斐・小島山登山道整備	ボランティア委員会
通年(1回/月)	せと環境塾。豊かな自然・循環を理解。瀬戸市タイアップ講座	猿投の森づくりの会
5月～10月	モニタリング1000の動物調査 環境省の委嘱	自然保護委員会
	猿投の森の動物調査	自然保護委員会
	北・中アの雷鳥保護増殖計画を支援	自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業 (公-I)		
年2回	ブラインド登山(視覚障がい者との登山)	ボランティア委員会
年3～4回	ひまわり登山(支部員視覚障がい者との登山)	ボランティア委員会

Ⅱ. 共益事業

月 2 回	バリエーションクライミング、技術講習会（実地）	アルパインクラブ
5 月	GW 合宿	アルパインクラブ
夏季	夏季合宿	アルパインクラブ

期 日	内 容	担 当
-----	-----	-----

Ⅱ. 共益事業（つづき）

11 月	全国ユース交流会（九州）	アルパインクラブ
冬季	冬季合宿	アルパインクラブ
春季	春季合宿	アルパインクラブ
5 月	支部通常総会	総務委員会
年 6 回（隔月）	支部友ミーテング	支部友会
毎月 3～5 回	支部友山行	支部友会
年間 60 回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月 1 回	月例山行	亀の会
随時	自主山行	亀の会
随時	歩こう会	亀の会
月 1 回	トレッキングクラブ 定例山行	トレッキングクラブ
随時	写真撮影山行及び写真教室開催	写真展実行委員会
1 月 17 日	支部新年懇親会	総務委員会
4 回/年	支部報第 1 8 2 号 1 8 3 号 1 8 4 号 1 8 5 号	支部報編集委員会
5 月	夏山フェスタ	総務委員会
調整中	インドヒマラヤ登山隊派遣	海外登山委員会 インドヒマラヤ小委員会

令和 7 年度役員

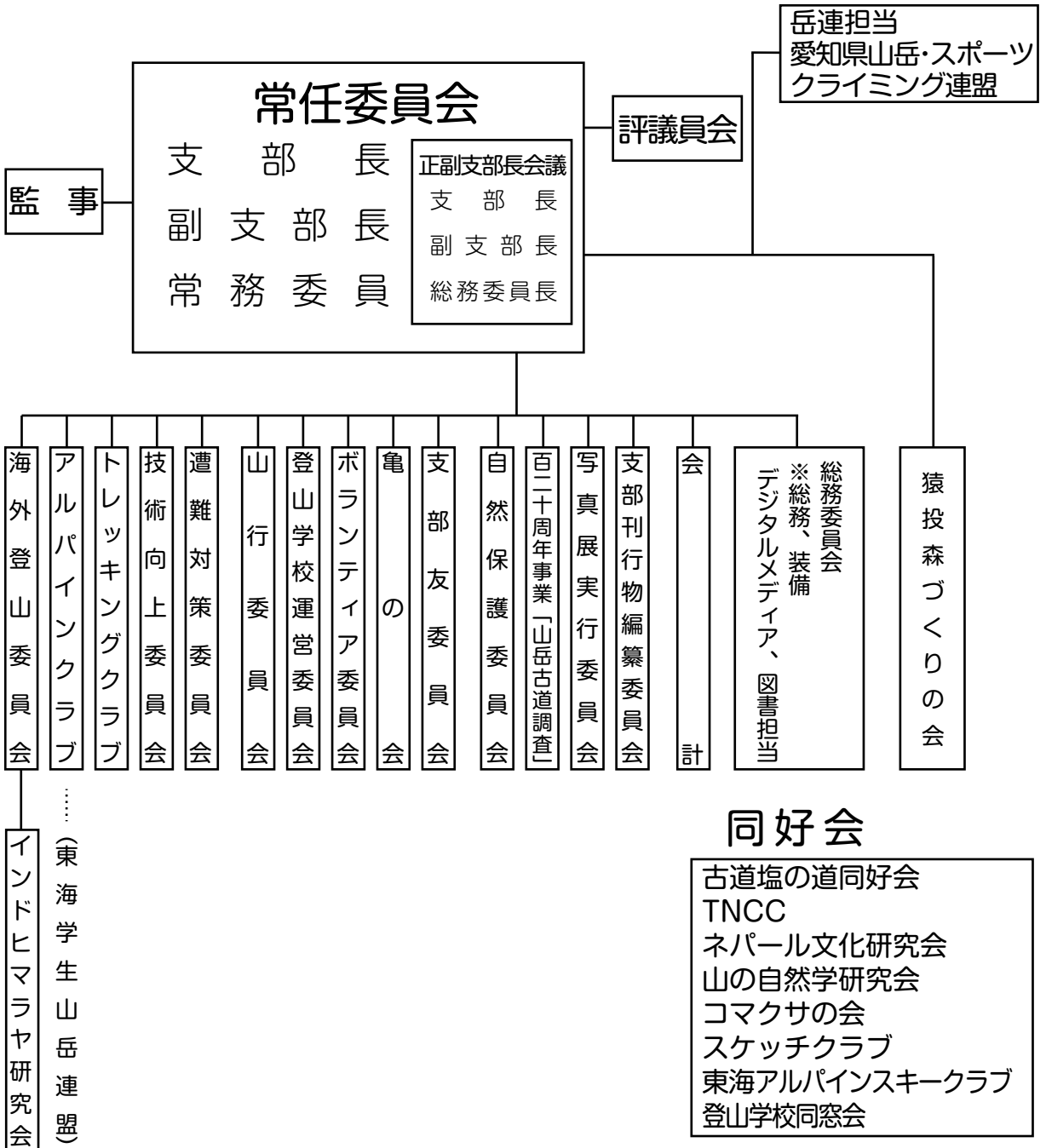
は前年からの変更。枠なしは重任

支部長	高橋玲司						
副支部長	今津英一朗	前田隆久	服田康宏				
監事	市川義行	榎 将美					
常任評議員	尾上 昇						
評議員	大口瑛司	片岡泰彦	杉田 博	野呂邦彦	横田明信	天野倅明	
	佐野忠則	瀧根正幹	毛利邦男	石井 仁			

常務委員会	委 員 長	常務委員会	委 員 長
総務委員会	今津英一朗	登山学校運営委員会	服田康宏
会 計	奥山千佳	自然保護委員会	石原俊洋
岳連担当	齋藤絵美子	海外登山委員会	山田利行
支部友委員会	金谷正起	ボランティア委員会	前田隆久
山行委員会	稲葉真英	支部刊行物編纂委員会	星 一男
亀の会	鈴木慎吾	遭難対策委員会	高松信治
猿投の森づくりの会	和田豊司	技術向上委員会	清水克宏
トレッキングクラブ	服田康宏	写真展実行委員会	岩月邦文
アルパインクラブ	高橋玲司	東海学生山岳連盟	諸岡晴陽
支部報編集委員会	星 一男	120 周年事業「山岳古道調査」	西山秀夫

令和7年度組織図

総 会



- ・ 正副支部長会議はチャレンジ基金などの用途を含めた支部業務全般の調整をする。
- ・ 山岳救助隊は必要に応じて設置される

ご支援（ご寄付）のお願い
カナダ合宿に支部員 4 名が参加!!

東海支部長 高橋 玲司



M t . アルバータ (3619m)

今度、本部ユースクラブが主催するカナダ合宿 2025 に参加者 10 名の内、東海支部員 4 名が占めます。谷 剛士さん、高橋湧太さん、草野駿希さん、中畑岳登さんです。

谷さんは、カナダ在住の国際ガイドで、以前より支部員の山田利行さんとカナディアンロッキーの山々を登り、数々の難ルートからの登攀記録は「東海支部報」や本部「山」の誌上で紹介されています。尚、谷さんは、今合宿の登攀リーダーの重責を担います。

他の 3 名は現在、東海支部のアルパインクラブで活躍中です。合宿の主力メンバーとしての 4 名の活躍は、東海支部の名を一層高らしめること大なるを期待するところです。

是非、支部関係各位のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

合宿の概要

名 称 : 日本山岳会ユースクラブプロジェクト カナダ合宿 2025

リーダー : 松原尚之 (日本山岳会ユースクラブヘッドコーチ)

日 程 : 2025 年 7 月 19 日～7 月 31 日 (13 日間)

目的の山 : M t . アルバータ (3619m) の登頂 カナディアンロッキー

※ M t . アルバータは、1925 年 7 月 榎 有恒 等 6 人の日本山岳会隊によって初登頂されているが、今でも登頂が困難な難関峰として知られている。今年は、その初登頂から 100 周年となる記念の登山でもある。日本山岳会にとっても大変縁の深いこの山に若い山岳会の会員が挑戦することは、意義深いものがあると言える。

募金要項 : 東海支部の募金目標額 50 万円 1 口 5,000 円以上

振込先 : 三菱 U F J 銀行 鶴舞支店 普通預金口座 0105162

公益社団法人 日本山岳会東海支部 支部長 高橋玲司

※ お振り込みいただいた寄付金は、支部を通じてご氏名と共に本部に送金させていただきます。

第11回夏山フェスタ開催

副支部長 服田 康宏

5月17日(土)・18日(日)ウインクあいち(愛知県産業労働センター)7階・8階展示場にて第11回夏山フェスタが開催された。

石井スポーツ、好日山荘、Alpen、カモシカスポーツ山の店など販売店やヤマップ、ヤマレコから槍ヶ岳山荘、双六小屋、穂高岳山荘、涸沢ヒュッテをはじめとする日本各地の山小屋が集う中部地区最大の山岳関連総合イベントだ。

来場者は17日(土)3,377名、18日(日)2,466名の合計5,823名。昨年に比べ500名近く増加し、会場は大いに賑わった。

セミナー会場では2日間にわたり、サバイバル登山を実践する登山家／作家の服部文祥さんによる「自力登山は面白い」、俳優で山の日アンバサダーの小林綾子さんと「山と溪谷」元編集長萩原浩司さんの「わたしの一番の山」、日本山岳会理事の松田宏也さんの「生きて還って、また登る」、鹿屋体育大学名誉教授・山本正嘉さんの「夏山登山を目指して」などの講演がおこなわれた。

このほかにも安全登山に役立つ登山用品セミナーとしてヤマテン代表・猪熊隆之さん、マウンテンガイド協会会長の平川陽一郎さん、東海支部の千葉泰丈さんらによる天気やアプリ活用法、登山道具、緊急時対策の講習会も開催され、こちらも大盛況であった。

この夏山フェスタは、全国山の日協議会、日本山岳ガイド協会、中部経済新聞社、日本山岳会東海支部による実行委員会形式で運営されており、毎年東海支部も会場整理やアナウンス、書籍販売や抽選会の補助などイベントの進行に協力している。



セミナー会場の模様

今年はボランティア委員会、トレッキングクラブ、東海学生山岳連盟、アルパインクラブ、登山学校同窓会、写真展実行委員会、総務委員会など30名以上のみなさんに集まっていた。

当日は朝1時間前に集合し、役割や動きなど入念な打ち合わせを行いオープンに備えた。また会場内には支部の展示ブースを設置し、支部友会を中心に会員の募集も行った。ご尽力いただいた方々のおかげで、2日間を通じて東海支部をPRすることができたと思っている。

なお、18日イベント終了後には中部経済新聞社主催のスタッフ慰労会が開催され、セミナー講師の小林綾子さん、萩原浩司さん、平川陽一郎さんも参加して大いに盛り上がった。

夏山フェスタの収益の一部は実行委員会から支部に協賛金として配分され、貴重な財源となっている。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。来年もよろしくお願いします。



スタッフ慰労会



支部ブースの会員募集

敗退の厳冬期単独北アルプス主脈全山縦走

アルパインクラブ 草野 駿希

アルパインクラブの草野駿希(くさのとしき)です。今回は結論としては早期敗退となりましたが厳冬期の北アルプス主脈全山縦走に挑戦した報告をさせていただきます。

私がこの山行に惹かれたのには大きく2つの理由がある。

1つ目は2022年に実施した夏季の単独北アルプス全山縦走のときに関わるのである。こちらの夏季の縦走は33日間に及ぶ、ほぼ無補給の長期縦走となった。この山行を計画するときにインターネットで調べている時、北海道の山岳ガイド舟生大悟さんによる厳冬期単独の北アルプス主脈全山のブログを読み感銘を受けた。

夏季の縦走を達成した後からは、雲の上の憧れの存在から目標へと変わった時でもあった。

2つ目は漫画「孤高の人」の中で主人公を含むパーティでのトレーニング山行でも厳冬期北アルプス主脈全山縦走が出てくる。これは主人公に大きく変化をもたらす山行として扱われるので強く印象に残っていた。

以上の2つが大きな理由だが、純粋に「厳冬期北アルプス全山」という山や心くすぐる名前も魅力を大いに感じる場所であった。

この山行に向けて、たくさんの山行を積み重ねた。

主な4つを取り上げる。

- ・夏季北アルプス全山縦走33日間(2022単独)
- ・夏季3000m峰全山縦走37日間(2023単独)
- ・厳冬期表銀座縦走8日間(2022.12/28-2023.1/4単独)
- ・厳冬期裏銀座&槍穂縦走14日間(単独2024.1/26-2/8)

これらの経験を経て、いざ全山の計画が始まった。

今回の厳冬期単独北アルプス主脈全山縦走の計画ルート。

行程

親不知(海拔0m)-白馬岳-唐松岳-後立山-裏銀座-槍ヶ岳-奥穂高岳-ジャンダルム-西穂高岳-焼岳

上記のとおり海拔0mから北アルプスを縦断して穂高まで全長100kmを越える最大40日間の計画となる。

この山行にむけて装備も見直した。写真からも全装備の多さがわかるかと思う。

新しく購入した装備や食料でおよそ20万円もの費用となった。主には衣服などで8万円、食料関係で3.5万円程度になる。アイゼンは普段使ってるものから、山行中で爪が丸くなることを考慮して新品を購入した。また、テント内のマットもエアマットを購入して睡眠の質の向上をはかった。装備については合計で37kgとなった。



海拔0m 日本海親不知



全装備

実際の山行の報告としては最初にも書いた通り、早期敗退となった。入山して2日目には日本全国を襲った最強最長寒波によって、少しずつ天気が崩れ始めて想定よりもペースが上がらず。そして、なによりも苦しめられたのが天気の崩れ始めが雨だったことである。厳冬期に雨が降ることを考えていなかったのが装備が濡れて衣服も濡れて寒かった。3日目からは本格的な大雪でほとんど進まず、濡れ

た装備も堪えた。4, 5, 6日目は停滞した。7日目になるまで天候の動向を確認したが回復の目途が立たず、一度濡れた装備も乾かせないことから撤退した。白鳥小屋と梅海山荘の間での撤退であった。

今回の山行は結果として、あっけなく終わってしまったが命あってこそこの登山であり判断は間違っていなかっただろう。より一層のトレーニングや準備をして再びチャレンジしたい。

また、私個人としてYouTubeに動画を載せているので興味をお持ちの方は、ご覧いただきたい。今回の縦走に関連する動画もある。検索では「☆草のん☆」または画像にてQRコードを載せておく。

最後になったが、今回は多くの皆様に応援していただき、心から感謝したい。今後ともご声援いただけたら幸いである。



YouTube ☆草のん☆ 動画チャンネルQR

TOPICS 1

献血センターで 8000m 峰の頂上の石の展示

昨年に引き続き本年も愛知県赤十字から同献血センター（JR ゲートタワー26F）の展示コーナーへの展示企画の依頼があった。

昨年は、「登山道具の今と昔」でピッケル、登山靴、登攀具、ザックなどを展示した。今年は、ヒマラヤ 8000m 峰の頂上の石（エベレスト、K 2、マカルー、ブロードピーク）が目玉である。いずれの頂上の石も東海支部の登山隊と支部員、元支部員が持ち帰ったものだ。

他に昨年の東海支部が派遣したインドヒマラヤ登山隊の写真及び本年の 2 月開催の山岳写真展から選んだ 4 点の作品も並べられた。4 点は、支部員の蟹江れい子さん、井上寛之さん、椿 利枝子さん、増田千恵子さん撮影の力作である。展示期間は 5 月 1 日から 29 日で、献血センターの待合室の展示コーナーを飾った。（編集委員）



右下に 8,000m 峰頂上の石

アルパインクラブライト組織

「アルパインライト」設立に向けて

アルパインクラブ代表 高橋 玲司

東海支部員の多様化の指向に伴い、登山学校や山行委員会による各山行企画により、山行は企画されているが、積極的な上級ルートやロープクライミングの企画は、アルパインクラブの活動に限定されている。

一方、アルパインクラブにおいては、精鋭的クライミングを志すものと、アルパインクライミングやバリエーションクライミングにおいても精鋭的活動ではなくグレードで初級クラスを志すクラブ員と二極化している現状がある。

そこで、後者のグループでリーダーを行う人材を中心に、登山学校で上級以上、ロープクライミングの基礎的ルートを中心としたグレードから行う「アルパインライト」を設立することとした。

指導スタッフ：アルパインクラブが認めたクラブ員 **対象：**東海支部員、支部友会員、東海学生山岳連盟会員

グレード：初級バリエーション：ロープを必要としない登攀～初級クライミングを含む。

※積雪期は別途要件を満たすものとする。

参加要件：自主的な参加意欲があり、リーダーの求める要件を満たす山行経験、体力、装備を有するもの。あくまでツアー登山意識でなく、企画と運営に参画できるもの。

※指導スタッフが遠隔地にいる関係上、現地集合もあり、自主的に登山口に来られる方。

開催頻度：月一回を目途に実施。7月に事業内容の説明を行い、年内山行募集開始を予定。

募集方法：東海支部の山行募集システムにて運用予定。アルパインライト代表予定者 蒲谷和幸

東海支部主催

今秋「全国ボランティア支援登山集会」を開催

ボランティア委員会委員長 前田 隆久

日本山岳会が公益社団法人になって13年になります。公益活動としての社会貢献事業の重要性も年々高まってきています。そこで、ボランティア支援登山に関しては、歴史のある東海支部(ボランティア委員会)が主催して、現在、ボランティア支援登山を実施、または、計画されている各支部の皆様と、ボランティア支援登山のより良い姿と普及を目指しての情報交換会「全国ボランティア支援登山集会」を、下記概要の内容で開催いたします。

さらには、今集会をきっかけに、全国的なボランティア支援登山のネットワーク作りにも繋がればと考えております。

東海支部の皆様におきましても、是非、たくさんの方にご参加いただき、この機会に、ボランティア支援登山をご理解いただきたく思い、まずは、ご案内いたします。

参加に関しての詳細は、後日、支部報、メールマガジン等で、お知らせいたします。

概要

名称：全国ボランティア支援登山集会

主旨：公益活動としての社会貢献事業の一つとしてのボランティア支援登山の普及を目指す情報交換会。さらには、将来に向け全国的なボランティア登山のネットワーク作りを目指しての第一歩。

日時：令和7年 11月15日(土)・16日(日)

場所：東海支部ルーム及び名古屋近郊の山(未定)

内容：11月15日(土)13:30 受付、14:00から開始 各支部報告(東海支部と参加各支部)、講演とディスカッション、終了後、希望者で懇親交流会。

11月16日(日) 名古屋近郊の山で、ブラインド登山(視覚障がい者との登山)を実施。

対象：ボランティア支援登山を現在実施、もしくは計画されている各支部の皆様と、東海支部の皆様。

2025 年度 春のシーズンを振り返る

ボランティア委員会委員長 前田 隆久

2025年春のシーズンは予定していた委員会公式行事が全て実施できた。今春から新たに、小島山登山道 白樫コース整備清掃登山が加わり、SON愛知との「山岳会と一緒に登山」、「春のひまわり登山」、名古屋家庭裁判所との「タンポポ登山・身柄付き補導委託登山」、「ブラインド登山」と併せて、5つの公式行事が無事終了した。4月、5月に行われた委員会公式行事をまとめて紹介する。

①春の小島山登山道 白樫コース整備清掃登山＝ボーイスカウト、地元の団体と合同での登山道の整備清掃登山

4月19日(土)、20日(日)の2日間に渡り、揖斐の庵(もりなり)に宿泊しての、小島山の整備清掃登山。ボーイスカウト岐阜第11団の少年、小島地域づくり協議会と合同で、49名が参加。夜の懇親会と、少年たちとの登山を楽しんだ。

②春のひまわり登山＝支部員、支部友のブラインド登山者(視覚障がい者)との登山

4月26日(祝)、車3台に分乗して、東三河・雨生山へ登った。東海支部員14名(内、ブラインド登山者5名)が参加。ハルリンドウが咲き乱れる、眺望の良い登山を楽しんだ。

③SON愛知「山岳会と一緒に登山」＝SON愛知のアスリート(知的障がい者)との登山

4月29日(祝)、公共交通機関を使っでの登山に切り替えて5年目となり、今回は、JR新所原駅に集合して、湖西アルプス・神石山を往復した。アスリート5名、SON愛知関係者5名、



ブラインド登山・天狗棚にて

東海支部員22名が参加。晴天で快適な尾根歩きだった。今回は、たくさんの支部員の方に参加いただき、アスリートと触れ合った。

④タンポポ登山・身柄付き補導委託登山＝名古屋家庭裁判所の委託で、試験観察中の少年との登山

5月23日(金)、試験観察中の少年1名と家裁関係者3名、東海支部員4名で、猿投山に登山。今回から、学生ボランティアを中心とした行事に切り替えた。

⑤ブラインド登山＝公募したブラインド登山者(視覚障がい者)との登山

5月25日(日)、福祉バスを利用して、奥三河・天狗棚、1200高地へ、ブラインド登山者12名、東海支部員18名、一般支援者5名の35名で登った。雨上がりの、新緑と幻想的な雰囲気の中、森を楽しんだ。



SON愛知「山岳会と一緒に登山」・神石山にて

今回の支部報の別ページで、この秋に東海支部が主催して行なわれる「全国ボランティア支援登山集会」のご案内をしているが、ボランティア委員会の登山が、単に支援登山で終わらず、その先の共生社会の実現に繋がる取り組みの一つであることを、東海支部の多くの人に認識していただき、東海支部から、さらに全国の支部へと広めていきたいと思っている。

杉田 博 画伯 白寿展

支部員 沖 允人

日本のインド・ヒマラヤ登山は立教大学山岳部（堀田弥一隊長、隊員計5人）によるナンダ・コット(6867m)登山が始まりとされている。89年前の1936年（昭和11年）10月であった。堀田弥一は100歳まで生きて活躍した初めての登山家である。

東海支部の杉田 博は堀田弥一に次ぐ100歳まで生きて活躍した登山家となりそうである。杉田博はかぞえて今年99歳となり白寿99歳のお祝いの年となった。

杉田 博は慶応大学を卒業して東海銀行に職を得て定年まで勤務した。東海銀行では、本職のかたわら東海銀行山岳部で登山活動が続けていたが、1965年全日本ヒマラヤ登山隊として東海地区山岳連盟が主管することとなり、その隊長に抜擢された。ダウラギリⅡ峰登山隊である。35歳であった。

登山中も絵筆を離さず、素晴らしいスケッチ画などを残した。自身の「画家プロフィール」によると「登山とともに小学校時代から憧れていた画家になる夢を追い、東海銀行定年後に画家活動を本格的にスタートし、全国の山々へ出かけ、山への愛を日々描き続けている」とある。

支部では、スケッチクラブを立ち上げ、リーダーとして長年会を引っ張ってこられている。

今や「画伯」であり、多くの絵の弟子を育てられている。これまでに描いたスケッチは約1000点をこえるという。会場に展示されたのは、ほんの一部である。

白寿展(2025年5月22-25日・名古屋市千種区・AMCアート&マインドセンター)を開催され、白寿展は多士済々の集りとなった。著書も並べられていた。参会者は沢山の絵に囲まれて「山を愛した人生」をお互い満喫した。(文中敬称略)



白寿展パンフレット



会場風景



現代アート・水谷イズル画伯と杉田画伯(会場にて)

技術向上委員会

「イグルー講習会」に参加して

支部員 大橋 博子

昨年は天候不順で中止となってしまった技術向上委員会開催の「イグルー講習会」に今年も参加させていただいた。講習の参加者6名、技術向上委員が3名。講師は『イグルスキー』の異名を持つ、イグルー作りでは第一人者の米山悟さん。この冬は例年稀に見る積雪に雪の量は十分で、予定されていた3月29日～30日の2日間とも天候に問題ないことから、イグルーでの宿泊もできるとのこと。今年で三回目の企画となったイグルー講習会は、初めてイグルーでの宿泊体験が出来て、これまでの講習会と大きく違う点で、とても楽しみだ。

講習場所になる乗鞍高原のMt. 乗鞍スキーリゾートのリフト最上部から山間に入った小平地に到着後、早速講師の『イグルスキー』こと米山悟氏のイグルー製作のお手本を見せて頂いた。道具は刃渡り30cmくらいののこぎりとスコップ。雪面にのこぎりですり込みを入れ、雪のブロックを取り出し周りに積んでいく。説明や製作のポイントを交えながら、1時間ほどでイグルーが完成した。

その後、早速各自でイグルー作りに取り掛かるものの、初めて経験だけに苦戦。四角いブロックを切り出すのはさほど苦労しなかったが、屋根材として使用する細長いブロックを切り出すのは難しく、雪から取り出しやすいように角度をつけてハの字に切り込みを入れなくてはいけないのだが、思うように取り出せずに割れてしまうことがしばしば。また、上手く取り出せたとしても、持ち上げる際に折れてしまったりもした。降り積もった雪の層によって雪質が凍っていたり柔らかかったりと異なることが実感できた。

屋根材の積み方も落ちないように気を付けながら、大胆に内側にせり出させて積んでいく必要があるところを、折れてしまった短いブロックをちまちまと積んでいたらなかなか屋根が塞がらない……。3時間程掛かって日の暮れる頃によく全員のイグルーが完成した。

イグルーにいざ泊まってみると、テントより住居に近い感じがして、安心して泊まれる空間だと感じた。イグルーの下半分は雪を掘って作



完成したイグルーの前で記念撮影

っているため、しっかりとした雪壁があり、強風が吹いていてもびくともしない。また、ランタンを灯したイグルー内はとても明るく感じた。壁が雪で出来ているため、光を反射しやすいことが理由なのではと考えられるが、これも安心できる理由の一つだと考えられた。

また、天井が高いため、腰を屈めずに立つことが出来る。これは腰痛持ちの自分にはとてもありがたいポイントだった。他にも雪上のテント泊と大きく違う点は雪で出来たイグルーならトイレの音も匂いも気にせず、家の中で済ませられるということ(笑)は、意外な利点だった。

一番気になっていた就寝時の寒さに関しては、個人の差はあるかもしれないが、翌朝まで寒さで寝られないなんてことは全くなく、雪上テント泊とほぼ変わらないように感じた。さらに、針葉樹の葉っぱを敷き詰めることで、寒さの心配は要らないと感じた。

2日目は昨日の反省点をふまえ、各自でもう一度イグルーを作成し、昨日よりも全員スピーディアップして2時間ほどでそれぞれのイグルーが完成していた。実際の山行でイグルー泊を取り入れるとなると、製作時間が課題となると思われる。テント設営だと30分も掛からずに完成するので、それに近い時間で作りたいところ。講師の米山氏は45分位で作ることが出来るそうなので、それならばテント設営と大きくは変わらない。

今後は練習を重ねて製作時間を短縮し、実際の山行でイグルーに泊って軽い荷物で雪山を縦走してみたいと思った。

猿投の森づくりの会 総会開催

猿投の森づくりの会代表 和田 豊司

瀬戸市山口公民館において高橋会長(支部長)も参加の下、令和7年(2025年)度総会が5月24日開催された。

令和6年度は当会の設立20周年を迎えた。拠点として利用している三叉広場での記念伐倒や音楽祭、パーティセとでの東大蔵治教授による記念講演、記念誌の発行など記念事業を行ったことが報告された。

また酷暑の中で愛知県有林、東大演習林を主な作業地として環境林整備や自然観察会、各種イベントを実施したことが報告された。

今年度は会員65名、総予算(繰り越しを除く支出)107万円の予算で環境林整備を実施していくことが決まった。活動エリアは新たに愛知県と結んだ第8次協定をベースとした猿投の森(県有林やまじの森)、東大赤津演習林、日本山岳会所有地(山桜フィールド)である。

人工林グループは猿投の森へ入ったゲート近くのスギ間伐や冬季は東大赤津演習林の間伐を行う。雑木林グループはシャラノキコースの採光除伐を継続実施する。山桜フィールド

ドでは炭焼きを行う。一般の方の参加を頂きながら自然観察会も毎月開催する。

作業日は

第1土曜日 山桜フィールドで炭焼き

第2火曜、第4土曜日 定例猿投の森環境林整備

第3土曜日 自然観察会

第3火曜日(10月～3月) 東大赤津演習林間伐

この基本活動以外にイベントとして

(1) 東海自然歩道上の枯死木除去(支部との共同作業を予定)

(2) 瀬戸環境塾、なごや環境大学、森の探検隊、環境教育

(3) シイタケ栽培、炭づくりなど森の恵みを享受する活動

(4) わいがや講座、緑陰講座、自然観察会などの自己研鑽イベント

なども実施していく。

本年度も活発な活動予定が総会で決まった。支部員の多くの方に活動自由に参加して頂きたい。歓迎する。

20周年記念行事



三叉広場での音楽祭



講演に聞き入る参加者

追 悼

天野会長の記憶に寄せて

石田 伸郎

天野俣明氏は、東海支部において、登山教室、登山学校、支部山行リーダー等の山行部門で多大な貢献をされました。豊富な山の経験に基づく指導から多くの影響を受けた支部員、支部友員は多数に上ります。私もその一人であり、同好山の会の中で、長年指導を受けました。天野会長は、私達の心の中に、山の中にどの様に入っていくか、自然にどの様に接するかを教えて下さる先生であり、共に山を楽しむ会の会長として存在しております。

天野会山行の初期に経験し、マナー教育の鮮烈な記憶となっているものに「金峰山小屋の夜」が有ります。消灯時間を過ぎた2階の大部屋で、何時までも会話をしていた他の宿泊者たちに、天野会長は「静かに寝なさい。明日の朝早い人もいるんだから」と強く声を掛けると一瞬で、室内は静寂に包まれました。「優しく、強い」これがリーダーかと思っただけの出来事でした。

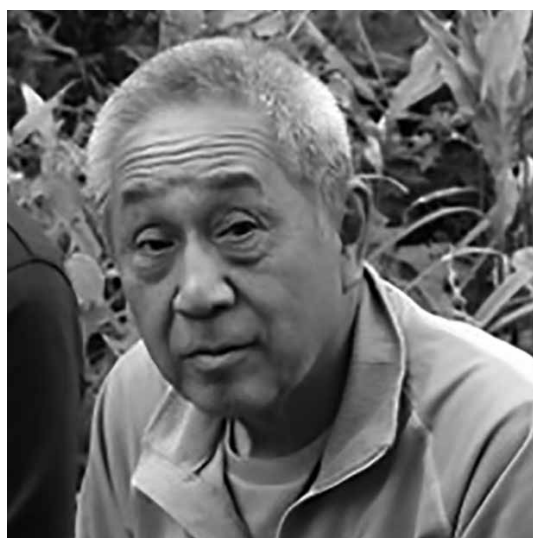
今年の5月初旬、北関東の山行を計画し、天野会長に「下山連絡先」をお願いした時、「連絡先承知致しました。3名ですか？安全第一でお出掛け下さい」と回答を頂き、2座目の日光白根山の下山連絡で「山頂に至らず」の報告をすると「残念ですが、また挑戦して下さい。上州白根もついでに」と再挑戦要請の回答でした。この気力充分な天野会長の突然の訃報を信じることが出来ず、いまだに思考の先、視線の先に存在を感じます。

十数年の間、数多くの山々そして自然の中に入り、同行の者たちに対し、気にしていないようで、気に掛けて、見ていないようで、よく観察していて、簡潔に説明するというような、私達にとっては、とても気持ちの良い御指導をして頂きました。天野会長の言葉と行動は、常に我々を導いてきましたが、今後も、山や自然に向かうときに思い出すことでしょう。

天野さん追悼

浅井 正行

天野さんと、過ごした時間は、私にとり、温かい気持ちになる時間でした。



雨飾山にて一服タイム

利尻から礼文、屋久島まで、全国の山巡りは、十余年、楽しく過ごさせて頂きました。

「在りし日のお姿を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします」

天野会長を偲んで

石田 智子

6月の天野会の実施を前に突然の訃報に、大変驚き、今でもまたお会いできるような気がしております。

数多くの山々をご一緒させていただきましたが、中でも印象にあるのは低山の山行です。低山はルートが幾多あり、それも山歩きの醍醐味ですが、踏み跡が多く判断に迷うことがありました。そんな時、山を読むというような、適格な判断をされていたことです。

メンバーはみな自由闊達に活動しておりましたが、そんななかで天野さんは適宜適切にさりりとアドバイスをされていました。

どなたに対しても真摯に向き合われていた方と感じておりました。また、そうありがたいと目標でもありました。本当にありがとうございました。

天野さん追悼

Y・N

天野さんとの出会いは、NHKの登山教室でした。山登りに憧れて参加してから、10数年も続けてられました。天野さんの「ゆっくり

行こうや」の声かけや下山後の「よし頑張った」の声はとても嬉しいものでした。山道にアメの小袋が落ちているとさっと拾ってポケットに入れている天野さんが思い出されます。感謝の気持ちをお伝え出来ないままのお別れとなってしまいました。天野さん大変お世話になり、ありがとうございました。

天野会長を偲んで

岡本 英俊

天野先生の訃報を聞いて、信じられない気持ちでした。ここ数年、病氣と闘いながら復帰されているお姿を拝見していると今度も立ち上がってこれると想像して居りました。

思い起こせば 十数年前に天野会に入らせて頂き、毎年12月から1月に、新しい年の毎月の計画を作成し日本各地の山々を山行して参

りました。一つひとつの思い出と沢山な写真も有り、その写真を見るたびに走馬灯のように思い浮かびます。

天野先生はお酒も大変嗜まれており、山小屋の食事の前に飲み会を開き、多くのお話をして戴きました。その引き出しの多い事にいつも感嘆しておりました。まだ、信じられませんがご冥福をお祈りします。



年齢も顧みず、位山でのラッセル 2013年2月24日

登山用具あれこれ⑩

テントの軽量化

総務委員会装備担当 千葉 泰丈

今となっては過去のこととして忘れつつあるコロナ禍に、密にならないレジャーとして流行っていたキャンピング、その流行は落ち着いたようです。

その代わりではないのでしょうかけれど、若い人を中心に少しずつであるが、登山でテントに泊まることがひそかに増えていると聞きました。様々な要素が有る中ですが、その中にテントの軽量化が進んでいることが一つ有るように思います。

登山で、主なのは1人又は2人用の個人で使うテントで、本体やフライシート、ポール等全部含めた重量が2人用で1.0kgを下回る製品が発売されるようになりました。今現在の一般的な軽量テントは2人用で、1.3kg位で各社競っています。1.0kgを下回るのは不可能と、勝手に思っていましたのでとても驚いています。

これは生地やポールの素材の軽量化の進化が無ければ実現不可能なことです。軽量でも強度のある素材が開発されてきたため実現できたといえます。登山で使うテントは平地で行うキャンピングテントとは違って、荒れた天候の山の中のような、命を守らなければならない時にも、信頼できる強度を保たなくては行けない性格のためむやみに軽量のみを追

求するわけにはいきません。これらの相反する性能を高度に追及しなければならぬ技術的な困難と、耐久性も犠牲にすることも出来ません。軽量になれば一般的

には耐久性能が落ちるのが当たり前ですのでより困難になります。使い捨てではありませんから。強度の強い素材と試行錯誤の結果生まれた技術で進化を遂げたといえます。製品の開発者の方々には心の中で感謝です。

またこのような性能の良い道具がなかった頃に、未踏の頂やルートを目指した先人にはその苦労が如何程か尊敬するものです。自分の登山は、これらの人々の作った土台の上にあるのだと感じています。

これから先ますます軽量化が進み、より困難な登山に対しても登山の技術が進化していくことでしょう。道具と技術が同時進行して行きます。

今後のより困難な登山にも期待できるでしょう。



アライテン SL ドーム 2人用
210×120×95
980g ￥68,200

名作の舞台を訪ねて(5)

支部員 村中 征也

50の名作・名曲の舞台を訪ねてのスケッチ旅の抜粋で、今回は愛知県の2編である。

歌曲 『椰子の実』 島崎藤村

- ①名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ
故郷の岸を離れて
汝はそも彼に歳月
- ②旧の樹は生や茂れる
枝はなお影をやなせる
われもまた渚を枕
孤身の浮寝の旅ぞ



この歌は昭和11年7月、NHK大阪で放送中の「国民歌謡」の担当者が、島崎藤村の詞に大中寅二に曲を依頼して完成、東海林太郎の歌唱で1週間放送。12月にはポリドールからレコードが発売された。

歌詞は、島崎藤村が明治34年に刊行した詩集『落梅集』の詞からで、流暢な文語体ながら、ルビが必要な語句が多い。

親友の柳田国男の話にヒントを得て創作。柳田は、明治31年夏1か月伊良湖岬に滞在し、海岸に流れ着いた椰子の実を見付けた。藤村は椰子の実の漂泊の旅に、自身の愁いを重ね、名作に仕立て上げた。

【現地を訪ねて】

伊良湖岬は、名古屋から遠い渥美半島の西端。35年前に二女と訪れて以来機会が無かった。2023年10月30日、豊橋経由で電車とバスを乗り継いで4時間を要した。

バス停からはレンタサイクルで椰子の実の歌碑へ。崖の中腹にあり、その下に日出の石門があった。

漂着の実験…昭和54年4月マリアナ諸島から1千個を放流、1個が三宅島に漂着したと書かれてあった。

風光明媚だが何もない。柳田の1か月滞在は不思議。遊歩道とサイクリングロードが整備され、恋路ヶ浜はサーフィンの名所。若者のリゾート地かと納得する。

童話 『ごんぎつね』 新美南吉

その時兵十が家の中に、栗がかためておいであるのに気づき、「ごん、お前だったのか、

いつも栗をくれたのは。」ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。兵十は火縄銃をばったりと、とり落としました。



椰子の実の歌碑近くから
恋路ヶ浜を描く

青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

新見南吉は大正2年、半田市生まれの児童文学者。母校の小学校の代用教員の傍ら、創作・投稿を続ける。東京外国語学校英文科に合格、東京に出て北原白秋・鈴木三重吉らと知合う。

彼等の指導で「ごん狐」が雑誌『赤い鳥』に掲載され、童話作家として存在感を示すが、文壇の動向や雑誌の休刊等で不遇を重ねる中、詞・戯曲等も残した。しかし、結核による29歳の若さでの死が惜しまれる。

【現地を訪ねて】

半田市岩滑に「新見南吉記念館」がある。

2010年には両陛下(当時)も訪れている。この時の体験から美智子皇后は、インドで開催された国際児童図書評議会の基調講演で、南吉の「デンデンムシノカナシミ」を取上げられ、流暢な英文が話題になった。

記念館近くの矢勝川畔には、「兵十の母の葬列の野に彼岸花が咲き敷いていた」ことから、地元の活動で彼岸花が300万本に増殖されている。

2019年9月、スケッチクラブの仲間と訪れたが、花は数本のみ…花期は4日間程で、合わせるのが難しいと悟った次第。



スケッチクラブの仲間と記念館前で

夏山フェスタから

今年も夏山フェスタの東海支部のブースにセミナーの著名講師の皆さんが寄ってくれた。5月17日(土)には服部文祥さんが、5月18日(日)には小林綾子さんと萩原浩司さんである。

服部文祥さんは、自ら「サバイバル登山」を名乗り、地図だけ持参の文字通りサバイバル登山を実践している。言う迄もなく食料の全てを現地調達。すなわち山中に求めるのだ。イワナやヤマメなどの溪流魚は当然のこと、ヘビ、カエル、小動物、山野草、きのこなど食べられるものなら何でも。最近、銃持参で鹿撃ちをしながらの狩猟登山も。

サバイバルだから登山道は一切使用しないし、時には、何十日もテント無しのビバーク登山もやっている。セミナーは、人気を博して超満席であった。

18日のセミナーの目玉は、女優の小林綾子さんと山の編集長こと元ヤマケイの編集長萩原浩司さんの二人によるトークショーである。演題は、「わたしの一番の山」である。お二人のそれぞれ一番の山、すなわち「わたしが一番苦労した山」「私が一番楽しかった山」「私が一番展望を楽しんだ山」などなどで、その山に対する思いやエピソードを語った。



中央に服部文祥さん



中央 左小林綾子さん 右萩原浩司さん



懇親会（反省会）右奥にお二人

さすが場慣れしている女優さんと登山界の寵児山の編集長。ユーモアやジョークを交えた軽妙なトークは、会場を大いに沸かせた。満席立ち見の大盛況であった。

小林さん自分の山歴も語ったが、大したものである。中々である。一例を挙げるなら、残雪の色濃い春まだきに燧ヶ岳へスキー登山、頂上から尾瀬沼に向かってスキー滑降である。また、鳥海山の頂上からも滑ってみたいと語っていた。

話には、続きがある。夏山フェスタ終了後の懇親会（反省会）が恒例だが、その席に駄目元でお二人を誘ってみた。何と快諾いただけたのである。女優を離れて山屋同志としての場を心得ておられるのである。小林さん実に気さくで、なんら気取るところなどなく、我々と山談義に興じておられた。

さすが「おしん」!!

(N. O.)

東海支部とインド・ヒマラヤ

支部員 沖 允人

井上靖の名作「氷壁」のモデルとなった石原國年の所属していた岩稜会の石岡繁雄が東海支部の活動のルーツといっても良いであろう。その後、ネパール・ヒマラヤのジャイアンツに向けて原真・尾上昇らが活躍して東海支部の名を全国区にした。

ナイロン・ザイル事件とは『事故・災害』（教育社 1992）によると、1955年1月2日に北アルプス山系前穂高岳で起きたザイルが切れて登山者が滑落死した事故のことである。このザイルが従来の麻ザイルよりも強いとメーカーが保証したナイロン・ザイルだったため、“ザイル論争”に発展した。滑落死した大学生の実兄である石岡繁雄は、長い間この事件の原因を実験で究明し、社会に訴え続けた。2013年の中日新聞の記事にもあるように、長く世間の関心を引いた事件であった。

その後、東海支部のヒマラヤでの活動は、支部員が参加しやすいインド・ヒマラヤに舞台を移し、鈴木常夫が中心になってほぼ一年置き毎に登山隊を企画・実施した。鈴木常夫が一戦を



引いてからは、星 一男にバトンタッチされ、2024年15次のインド・ヒマラヤ登山のラダック山脈のメラック (6481m) の初登頂に続いている。

この長年にわたるインド・ヒマラヤの活動を基に、栃木支部から東海支部に移ってきた沖允人が編集責任者となり、日本山岳会創立100周年記念出版として『インド・ヒマラヤ』を出版した。類書が無かったので、改訂版を出版するまでになった。2025年には再改訂増補版を出版した。英文にして『Indian Himalaya』も出版している。英語版には付録としてインド・ヒマラヤ登山年表 (約5000隊の登山概要) もついている。

東海支部は現在、多くの活動グループがあり、多面体の活躍をしているが、先人の築いた登山の最先端の活動を忘れてはならない。

(文中敬称略)



山行委員会だより

支部員 千葉泰丈 村井智恵

支部山行リーダーに就任して 千葉 泰丈

「なぜ、山行リーダーに？」と自問自答すると、大先輩に推薦されてと言うのがきっかけ。サブリーダーをしていたときに、あなたは経験が豊富なのだからと言われて、こんなうれしいことを言うて頂くのは恥ずかしい限りであった。

登山用品を扱う仕事を選んだのに仕事優先でそれほど山に行けていない、土日が休日ではないので他の人と休みが合わなくてどうしても単独の山行しかしていないというのが本音。

自分が人のお役に立てるなら、登山を広めることに自分なりに貢献できるのなら、との思いが片隅に有ったというのが建前。山の素晴らしさを伝えたい、人と共有したいとの思いは、でもこれは変わらない。

山でうろたえる姿を見せたらどうしよう。体力が無くて一番先にバテたらみっともない。予期せぬトラブルが有ったら。ネガティブな思いが心の中を駆け巡る。

でも、もしかしたら一人で山に行っているよりかはるかに楽しいのではないか！支部で山行をしていく中で、いろいろな方と出会う事が出来ました。それが、今自分が山行リーダーをする上でのモチベーションになっているのは間違いないところだ。

山は自分にとって教わるべき大切な経験をさせてくれる場所であり、人生の舞台でもある。

古光山山行に参加して 村井 智恵

4月20日の天気予報はずっと雨マークで中止と思っていたが、マークが消え、山行が実施された。古光山はススキで有名な曾爾高原の隣の山である。名古屋からは約150kmと距離があり個人では行きにくい山で支部山行で企画して頂き感謝。

計画書のポイントの”自然のアスレチック、両手両足を駆使します。”の通りの山だった。長尾峠から後古光山までは整備された階段が続き、急な所は手すりもあり安心して登る事ができた。



ロープも頼り難所を下る

ここから一気に道が険しくなり、下りはほぼ垂直に見え、足の置き場を探し、3点確保し、残置ロープにも頼りながら慎重に降りた。同じようなアップダウンを繰り返して古光山到着。残念ながら眺望はないが、ここからは平坦な稜線歩きでほっと一息つけ、南峰手前に360度パノラマビューの岩場があり山々の景色を楽しめた。南峰で昼食をとり、ここからまた激下りが始まり注意深く降りた。

急な斜面が終わり、ワラビを見つけてからは、皆でワラビ採りに夢中になり、先ほどまでの緊張感はどこかへいってしまった。

大峠登山口から車道歩き約3kmで駐車場へ向かう。土筆を見つけ採取したり、途中の地図にある三角点を探したり、歩いてきた登山道を眺め山の形は成程鋭い円錐形だと確認したりと、嫌だなあと思っていた車道歩きも苦にはならず楽しめた。登山道の距離は3kmと短いが達成感いっぱい、登り応えのあるおもしろい山だった。今回は春を感じる山菜のおまけ付きで得した気分だった。

今後も支部山行を通じていろいろな山を愉しみたいと思いますので、今後ともよろしく願いしたい。

東海岳人列伝(24)

原 武の死が支部創立の陣痛となった

編集委員 西山 秀夫

「二十五歳で必死になってヒマラヤに行った男が、帰国後は若気の過ちに気づき、慌てて山から足を洗い俗事に専念する。その結果は三十五歳で課長になれるかも知れないと言った場合を想像して見たまえ。彼の部屋にはヒマラヤの写真がかかっており、酒を飲めば思い出話に花が咲く。何となく退屈なみじめさどこか取るに足らぬ感じを与えるこの末路もいわゆる人生案内書の幸福にあてはまる。多くの登山家はこの道を歩む」。

「山の死—すぐれた登山家の死—は、ときには人生の完成を意味する。それは幻滅からの解放であり、自己欺瞞の克服である。美しい余韻を持つ、完璧な人生だ」(『北壁に死す』原 真の後記)。1973.9.2



☆ ☆ ☆

『東海山岳11』の50年史の冒頭には原 武の名前が少しだけ登場する。まるで流れ星のように夜空に一条の光を残して去っていった。あの光芒はアルピニズムへの限りなき憧憬だったかも知れない。

東海支部発足前夜

熱意有る若者たちの群像

昭和33年の秋のことである。名古屋・伏見の広小路通りに面したワダコーヒーという店があった。大正7年に発足した老舗である。伏見の喫茶店は本店に併設する形で昭和二十二年にできた。

戦後、娯楽に飢えていた人たちはミリオン座で映画を観たり、パチンコに興じていた。若者達向けには歌声喫茶も賑わっていた。喫茶店で一杯六十円(注1)のコーヒーを飲む習慣も戦後の洋風文化の進展の中で広まって行った風俗の一つであった。広小路通りには市電が往来していた時代である。

そのお客の中に声の一段と大きな若者達があった。中でも南山大学でスペイン語を学ぶ中世古隆司(5178)はラテン音楽が大好きで、この店の豆もブラジル産だったから中世古のお気に入りだった。その集会室での一夜のことだった。

若者たちが口角泡を飛ばしていた話題は冬の岩壁登攀のことだった。話題の中心には名古屋山岳会の加藤幸彦(5181、『絶対に死なない 最強の登山家の生き方』講談社)がいた。加藤は瀬戸市に生まれ、東海高校在学中から名古屋山岳会へ入会待ちをするような大の山好きだった。大学へは行かず、中小の貿易商社に入って誰よりも早く外国の事情に先んじていた。彼は東京で第二次R・C・Cが結成されたことに刺激を受けて、東海地方にもクライマーの集りを持とうと呼びかけたのだった。

クライマー同志の情報交換、協力、研究等を行おうということになった。名称は当時の世界的なアルピニストの集りであるフランスのグループ・ド・オート・モンターニュをそのまま真似て、G・H・Mと仮称した。

メンバーは前園陽太郎(以下名古屋山岳会)、鈴木真吾、加藤幸彦、高田光政、高橋達雄(以下岐阜登高会)、青木寿、神谷恵文、二村嘉彦(名古屋ACC)、学生では名大の磯村思児だった。

ヒマラヤへ誘う石岡繁雄

その噂を聞きつけて会合に顔を出したのが当時屏風岩初登攀(昭和30年1月)で有名になっていた岩稜会会長の石岡繁雄だった。同じく名大に勤めていた石原国利(岩稜会5180)を伴って訪れたのである。このムンムンする熱気は何だ、と石岡は思っただろう。彼らを彼らのエネルギーを良い方向に向けさせたいと考えたに違いない。石岡は言った。「国内における登攀よりも近い将来、是非ヒマラヤへ遠征しよう」と呼びかけられた。この発言が契機となって、ヒマラヤが目標に変わっていった。

石岡の自宅がたまり場になり、登山論に花が開いた。自分が捨石になる覚悟で奔走したのである。G・H・Mは発展的に解消され、ヒマラヤ研究会の発足になった。昭和34年5月28日に第一回目の集会が行われた。昭和35年、東海地区山岳連盟で加藤、石原がビッグ・ホワイト・ピークに遠征したが一敗地にまみれた。帰国後、この反省から気心、技量も知れた仲間と行くべきだとの結論になった。山岳連盟は山岳会が単位の団体であるから個人として交流できる日本山岳会が良からうという流れになっていった。

昭和35年9月、日本山岳会本部へは石原国利、加藤幸彦、中世古隆司、原 武、鈴木重彦、大口瑛司、須賀太郎、高橋達雄他8名が一度に入会した。この大量入会は本部の山崎安治(1919~1985、『日本登山史』)と石岡繁雄の推薦があった。東京の山崎と連絡を取り合い、東海地方在住の会員の意思を確認すると東海支部設立の賛意が得られた。

設立への蹉跎

昭和36年4月、鹿島槍ヶ岳北壁で支部の役員に予定していた原 武が滑落で遭難死した。同行の石原国利も入院、鈴木重彦が急を知らせに走ったのであった。支部発足の出鼻を挫かれた思いであったと中世古は回想する。しかし、その事故処理が契機となって兄・原 真と親しくなったのは歴史の皮肉というべきか。原 真も翌年に入会することになる。

設立発起人には岐阜登高会の篠田公平がいた。名古屋山岳会の跡部昌三がいた。名古屋山岳会は昭和十年に団体加盟していた。支部の基盤となる東海地方在住の会員は60名はい

た。

アルピニズムの殿堂への一步

昭和36(1961)年4月23日、鶴舞公園の桜もすっかり散ったころ、その隣の名古屋大学医学部の一角で東海支部は呱呱の声を上げた。東海地方にヒマラヤを目指す志の高いアルピニストの拠点が出来たのだった。「エベレストは気高い心を持つ者だけが登る資格がある」という名言で知られた松方三郎会長が来名した。初代支部長には石岡の上司であり、山仲間でもあった名古屋大学教授の須賀太郎が選ばれた。

引用は以上。

原 武は名古屋大学医学部の会場には出て来れなかった。同学部出身であり、発足時の会員として本来なら設立の会合に居なければならないのに遭難死して不可能になったのだった。

前置きが長くなった。彼の名前を冠した『北壁に死す』(山と溪谷社、初版 昭和48(1973)年)をもとに原 武の人生を眺めてみた。国内の初登攀、海外遠征などの輝かしい実績もないのに深田久弥(1903~1971)が序文を寄せている。本書の前に遭難死の3年後に1964年7月に遺稿集『北壁』が出版されている。才能を惜しんでのことだろう。深田久弥といえば『日本百名山』(昭和39年)のイメージであるが東大文学部を中退後出版社「改造」に入社。1929年(昭和4年)に雑誌『改造』が懸賞論文を募集した際、選考委員になった。宮本顕治(1908~2007)はまだ東大在学中の学生であり、蒲郡市の友人の旅館に籠って芥川龍之介の自死を題材とした『敗北の文学』を書き上げた。深田は友人でもあった小林秀雄「様々なる意匠」を退け1位に選定した。

宮本は1931年5月に日本共産党に入党。応募の論文の中に後の妻となる北畠八穂の作品も見いだしている。久弥との婚姻生活は破局で終わった。2019年5月のGWに青森近代文学館を見学すると「北のメルヘン作家」の地歩を築いていた。児童文学の作家になったのだった。深田久弥は文才を発掘する伯楽だったと思われる。

序文から引くと、前略、原 武君。私は生前の君を知らない。しかしこの一卷は君を年来の知己のように私に感じさせる。君の人なつ

こい、だが不屈な面魂の現れた肖像は、昨日山で別れた友のように、私の胸に迫ってくる。君も喜んで私の序文を許してくれるだろう。

君は君の親友ガンの死を悼んで、今後一生「実に惜しい男だった」と繰り返すだろうと言った。私はもっと言いたい。嫉妬深い悪魔が「こんな男を生かして置いたら将来何をしでかすか分からない」そう考えたに違いないと、そう言いたいほど、君は大きな未来を持っていた。

しかし君の魂は決して死なない。君が残して行ったもの、真に山を愛する若い人たちが心に抱き続けねばならぬもの、それを君は見事に残して行ったのだから。

以上。

本文は日記体なので字数も考慮して断片としてまとめてみた。

・死一いかに用心しても、山とは切り離せないものだ。僕自身幾度か危ない目にあいながら、真剣に考えてもいない。僕は惰性で山をやっているのか。目的は何だろうか。一部分的には、登攀中の刹那の歓びである。それが全部かも知れない。その内わかってくるだろう。何のために登るかは。

山への闘争心。肉体の疲れ。親父・おふくろ、話にならん。兄弟は利己的。友人とは壁を感じる。本も駄目だ。—1人で山の夕暮れを眺めて、時々相棒が欲しくなる。そんな時女友達でも傍にいたら。

だが、こういった満たされぬ気持が山へかり立てているのだとしたら、注意しなくてはならない。山では身体だけでなく、精神もベスト・コンディションで無ければならぬ。

p 48 名大生1年のころ。

・山だけが意欲を感じさせる。山が無かったら、衝動的に僕は自殺しただろう。

・僕は人生にふんざりをつけるために、激しい、命をかけるような登山をする気になった。屏風岩を冬の課題にしたのもそのせいだ。無論、それほど危険な登山じゃないが。自殺したと思えば、楽なものだ。

・誰でもいい、僕が死んだら山に墓を作ってくれ。冬山になくってはならぬところにケルンを積んで。例えば雲の平から薬師沢を見下ろす所とか、屏風の頭とか、南アのどこかとか、僕の憧れていた北海道に。ヒマラヤのパンブ

一チか、ギャラ峠の辺りでもいい。とにかく人の行かない、そして時々訪れる少数の人に役立つ所へ。下界に墓はいらない。山だけでいい。山は僕の恩人だったのだ。 p 57

・僕は山と不即不離で生きたい。山イコール人生でありたい。しかしそこまでは望まぬ。

p 112

・グレボン(※1)か、遠見尾根か、と迷ったが遠見へ行くことにした。グレボンは本当に登りたかったのだが。

鹿島山荘のおやじさんの告別式。

昨日は、ドンちゃんの送別会を、バックス、国ちゃん、世古さん、高橋さんとともにやった。(※2)

登山論が沢山出た。

小谷部全助(※3)、大島亮吉など、古い人のものを今一度読んでみよう。 p 140 名大山岳部報3号

※1 岩塔、針峰、とがったピーク。フランス・シャモニーにある針峰、穂高・滝谷にあるピーク。

※2 加藤幸彦、石岡繁雄、石原国利、中世古隆司、高橋達雄(高橋支部長の父)

※3「日本の登山史上不世出の名クライマー」東京商大(現一橋大)昭和10年北岳バットレスの冬季初登攀等。

年譜

昭和14年7月24日名古屋市熱田区生まれ

昭和27年4月東海中学入学

昭和30年4月東海高校入学

昭和33年3月 同 卒業

4月名古屋大学医学部進学課程入学

昭和35年名古屋大学医学部進学

昭和36年4月9日鹿島槍ヶ岳北壁で遭難死(21歳)



委員会報告

【亀の会】

2024年度 活動報告

月日		種別	場所	参加人数	備考
4月	5(金)	自主企画山行	岐阜県：清滝山(438m)	23人	
	12(金)	月例山行	三重県：筆捨山(286m)と日本武尊の古墳	17人	
	17(金)	自主企画山行	岐阜県：納古山(632m)～遠見山(272m)	17人	
	25(木)	自主企画山行	静岡県：真富士山(1343m)(すごろく)	19人	
5月	2(水)	歩こう会	名古屋市：猪高緑地	17人	
	9(木)	月例山行	八木三山(296m)	20人	
	17(金)	お祝い山行	長野県：傘山(1542m)	25人	傘寿3名
6月	7(金)	自主企画山行	山梨県：黒富士(1635m)(すごろく)	15人	
	18(火)	自主企画山行	長野県：蓼科山(2531m)(すごろく)	18人	
	27(木)	月例山行	福井県：鉢伏山(761.8m)	24人	
7月	3(水)～4(木)	自主企画山行	長野・山梨県：仙丈ヶ岳(3033m)(すごろく)	15人	
	16(火)～18(木)	自主企画山行	山梨県：富士山(3776m)(すごろく上がり)	16人	9名登頂
8月22(木)		月例山行	岐阜県：付知峡	17人	
9月26(木)		月例山行	岐阜県：鷹巣山(232m)	18人	
10月24(木)		月例山行	長野県：高鳥谷山(1331.3m)	23人	
11月	7(木)	自主企画山行	山梨・静岡県：竜ヶ岳(1485m)	15人	
	18(月)	歩こう会	愛知県：小幡緑地～八龍～満天星亭	19人	
	28(木)	月例山行	滋賀県：太郎坊山(350m)	23人	
12月5(金)		歩こう会	名古屋市：八事裏山	18人	
1月23(木)		月例山行	岐阜県：北ノ山(398.6m)～西ノ山(404.5m)	13人	
2月	7(金)	自主企画山行	三重県：オハイ海岸	23人	
	27(木)	月例山行	静岡県：栗ヶ岳(532m)	26人	
3月27(木)		歩こう会	名古屋市：藤前干潟～荒子川公園	12人	
				433人	

亀の会代表 鈴木 慎吾

同好会コーナー

スケッチクラブ

《早春の木曽路と安曇野》

3月20日(木)～21日(金)、8名で御岳休暇村の「スケッチ・撮影旅行」に参加、早春のひとコマを画用紙に写しとりたくて気合を入れ、名古屋城駐車場を出発しました。

【妻籠宿】

第1日目のメインは妻籠宿です。中山道 69次の42番宿であり、民宿街で往時を偲べます。

宿の90歳の爺ちゃんが観光客をつかまえて、200年前からの建物と生活様式を語っていました。スペイン人でしたが分かったかなあ。小生は話を聞きながら野沢菜のオヤキを頬張ってスケッチしてましたよ。

午後は三岳村日向で、木曽駒ヶ岳を眺めて描く予定でしたが雲で見えません。そこで阿弥陀堂の傍で枝だけの枝垂れ桜を描いていました。85歳の婆ちゃんが一輪車を押して山裾を上り

下りです。栽培されたフクジュソウを市場に出荷、とのこと。「あんたはいったい何しているのかね」と聞くので、「わたしあスケッチで遊んでるんじゃよ」と回答です。どう見ても画伯には見えませんので正直に言いました。

【白銀の後立山】

翌日は北安曇郡池田町の国営アルプスあずみの公園でのスケッチです。贅沢にも、大滝山・蝶ヶ岳から常念岳・大天井岳・燕岳・餓鬼岳・蓮華岳・爺ヶ岳・鹿島槍・五龍岳・唐松岳・白馬岳を眺望し、安曇野の田園と山岳描写を堪能しました。

しかし、公園内の美術館で同じ景観を描いた青木一美の『朝の安曇野』を観賞し、ショックを受け心肺停止になりそうでした。また、あずみの公園にわざわざ来てくださった安藤先輩ご夫妻とお話ができて、安堵したひと時を過ごせてスケッチクラブ会員は幸せでした。

明日に向かって希望のスケッチに励めること請け合いです。明日があるさあ！帰りのバスは定刻に名古屋城に到着しました。

《ぎふワールド・ローズガーデン》杉山 史

3月20日(月)、可児市にある「ぎふワールドローズガーデン」へ。気にしたお天気も好転、マスコットキャラクターの「ミナモ」がにこやかに迎えてくれました。

ゲートをくぐり抜けたさきは、目を見張る広さの中に色とりどりのバラの花が、整然と、あ



池田町クラフトパークで後立山をバックに

るいは可憐にまた妖艶に、私たちを迎えてくれました。

どこも絵になる、でも手ごわそう。広い園のなかを花に気を取られながらウロウロ目的を失念しそうになりながらやっと描いた絵にはバラの花がなく、最後の作品発表ではクラブの面々の感性にただただ感嘆し、バラの花に見とれて圧倒された一日が終わりました。「下手でもなんでも描き続けることが大事」目下の課題です。

スケッチクラブ 石井 仁



マスコットのミナモと一緒に

【TNCC】

長距離歩行山行 猿投山 (629m)

TNCC は月例山行以外に有志でオプション山行を行っている。今年の7月には「秋田駒(1623m)から乳頭山(1,478m)」への縦走を計画している。この時期の東北の山は視界が開ける樹林帯の上で、笹原や草原に花が咲き誇り魅力的である。標高差はそれほど多くはないが縦走を始めると退避ルートがない。平均年齢が79歳のメンバーにとっては厳しい。そのため長丁場の行程を歩く訓練を猿投山で行った。

6月5日、梅雨の始まる前爽やかな天候に恵まれ、やまじ変電所前を7時に出発。誰もいない篠田池から四ツ沢出会いを経て三角点、物見山、赤猿峠の展望台で昼食。ここまでくると東海自然歩道上となりハイカーも増えてくる。尾張と三河の境界を成すこの稜線は長い。山頂で折り返し帰路は東大演習林境界を下り廻道で



長時間歩行コース

ある第2管理道経由で15時30分変電所前に戻った。歩行距離15km、標高差800m程の長時間歩行を8時間余で無事歩きとおした。秋田駒へ自信を深めた訓練山行であった。参加者 浅井正行・松本陽子・田中紀・和田豊司

TNCC 浅井 正行

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和7年10月～12月分)

10月4日(土) ☆

山城：瀬戸 山名：物見山

リーダー：金谷 正起

10月5日(日) ☆

山城：京都東山 山名：大文字山

リーダー：村瀬 恭平

10月12日(日) ☆

山城：野坂山地 山名：野坂岳

リーダー：今津 英一朗

10月25日(土) ☆

山城：沼津アルプス 山名：香貫山～徳倉山

リーダー：川崎 禎明

11月8日(土) ☆☆

山城：養老山地 山名：石津御嶽・多度山

リーダー：磯部 隆

11月15日(土) ☆

山城：京都北山 山名：愛宕山

リーダー：村瀬 恭平

11月16日(日) ☆

山城：中山道 山名：妻籠宿～落合宿

リーダー：近藤 政仁

11月23日(日) ☆

山城：湖西アルプス 山名：座談山・神石山

リーダー：今津 英一朗

11月29日(土) ☆

山城：沼津アルプス 山名：鷲頭山～戸倉山

リーダー：川崎 禎明

12月7日(日) ☆

山城：湖北 山名：己高山・鶏足寺

リーダー：近藤 政仁

12月14日(日) ☆☆

山城：鈴鹿山脈 山名：竜ヶ岳

リーダー：今津 英一朗

12月20日(土) ☆

山城：奥三河 山名：夏焼城ヶ山

リーダー：倉橋 智司

支部友会員数 令和7年5月末現在 48名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

募集開始 山行日の3か月前から、支部会員は2か月前から。

締切日 原則山行日1ヶ月前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

「予定」第70回

テーマ：「パソコンを利用した地形図の作成」

日 時：8月12日(火)

会 場：支部ルーム 19：00～20：30

講 師：鈴木 慎吾氏(日本山岳会東海支部員)

「予定」第71回

テーマ：「朝明ミーティング」

日 時：10月18・19日(土・日)

会 場：朝明茶屋キャンプ場

1日目：分散登山後 BBQ キャンプファイヤー

2日目：講習会

リーダー連絡先

尾上 昇 onoe@onoe.co.jp

金谷 正起

kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

神 将美 sakaki@minds-consulting.jp

村瀬 恭平 hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津 英一朗

imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 takass@yk.commufa.jp

高松 信治 takama2nobu3@yk.commufa.jp

池戸 美恵 noboruonna@icloud.com

川崎 禎明 y.kawa715@gmail.com

倉橋 智司 ilyt6by8@qc.commufa.jp

林 康太郎 koutaropippi@gmail.com

近藤 政仁 vft55ud55@gmail.com

奥野 明美 tac-okuno@mbi.nifty.com

会 務 報 告

【2025 年 3 月常務委員会】

日時：3 月 26 日(水) 19:00～21:00

1. 支部長挨拶（高橋）

・夏山フェスタでは、色々な委員会が来客に勧誘の声掛けをしているが東海支部として統一した勧誘をして新規入会者を集めるための話し合いが必要。

・全国支部連絡協議会に服田副支部長と前田副支部長が現在オンラインで参加中のため常任委員会は欠席。

2. 総務委員会（今津）

- ・退会 5 名、入会 8 名。
- ・5 月 11 日(日)総会。草野氏報告、平川理事講演、新 HP 説明、懇親会。
- ・献血ルーム PR コーナー出展。5/3～29 ゲートタワー献血ルーム。
- ・全国ボランティア支援登山集会 11/15, 16 支部をあげてのイベント、各委員会は参加してほしい。
- ・5/17, 18 夏山フェスタのお手伝いをお願いします。
- ・5/11 の総会で委員長の人事を伝える必要があるのでは変更があるかないのか早めに連絡する。
- ・本部に令和 6 年度の登山実績を報告しなければいけないので連絡をお願いします。
- ・日山協(JMSCA)の赤字補填問題、50,000 円を拠出する予定。総会で審議する。

3. AMSCA（星）

- ・星氏が JMSCA で東海ブロック（愛知、岐阜、三重、静岡）の代表理事になった。
- ・豊橋市の立岩の持ち主からクライミングの利用中止の要請があった。豊橋市、愛知県東三河遭難対策協議会が動いて事前登録の上利用が可能になった。

4. 支部友委員会（金谷）

- ・問題なく山行実施。
- ・夏山 9 コース予定、木曽駒ヶ岳健脚コースのサブリーダーを検討中。

5. 山行委員会（稲葉）

- ・リーダーの人数が減っている所以山行日数も減っている。
- ・支部山行のキャンセル料の見直しが提案され承認された。見直しの目的は、自身の予定が確定しない前での安易な申込の抑制。キャンセルによる他参加者の負担軽減(直前で

のレンタカー車種変更、追加募集)

【変更前】 山行当日のキャンセル料は参加費の全額

【変更後】 当日～3 日前、参加費の 100%とする。

(支部友山行のキャンセル料も支部山行に準ずることとすると金谷委員長の発言があった)

6. 亀の会（鈴木慎吾）

- ・米寿、傘寿のお祝い山行実施。
- ・マイクロバスの運転手への支払い 25,000 円から 30,000 円に値上げ。

7. 猿投の森づくり（和田）

- ・3 月で東大演習林の作業終了（毎年 10 月から 3 月に作業）
- ・新年度、猿投の森づくりの会と愛知県有林で新たに協定を結ぶ。
- ・観桜会・新芽を食す会 4/5(土) 三又広場、支部員の参加歓迎。

8. トレッキングクラブ

資料のみ

9. アルパインクラブ（高橋）

- ・バリエーションクライミングを若い人同士で行く。
- ・春合宿募集、ゴールデンウィーク
- ・12 人ピックアップして月一回月例山行を実施予定。
- ・アルパインライト（初級の上級者）の山行を月一回実施予定。

10. 東海学生山岳連盟（山下）

- ・来年度委員長は諸岡さん。
- ・夏山フェスタとゴザフェスの人員を募る。
- ・春の総会に新人学生に参加してもらう。

11. 登山学校（服田）

- ・次年度登山学校（第 9 期）受講生募集、3/31 まで支部友優先。
- ・ジャパンレンタカー割引サービス（法人契約）各店舗に周知された。【日本山岳会東海支部】と名乗るだけで割引料金で利用できる。
- ＊料金（税込/24 時間）ヴェルフファイア 平日 10,000 円 土日祝 11,000 円
ハイエースグランドキャビン 平日 12,100 円 土日祝 15,100 円

12. 自然保護委員会（石原）

- ・豊田の猟師さんと交流。調査していくうえで地元の人とお付き合いをしていくことが必要。
- ・中央アルプスの二ホンライチョウの保護増

殖活動の協力依頼を受けた。

- ・イベント開催時に老若男女問わず参加を募る。

13. 遭難対策委員会（高松）

- ・3/1 気象講座
- ・雪崩講習 3/15～16 を予定していたが悪天候のため 3/15 のみ開催。

14. 写真展実行委員会（岩月）

- ・2/24～3/2 第 19 回写真展開催、1112 名の来場者
- ・インド・ヒマラヤ隊コーナーで関心を持ってもらえた。
- ・中日新聞に掲載された記事を見て来場された人が多かった。
- ・3/22 写真山行実施 9 名参加

15. 技術向上委員会（清水）

- ・【イグルー講習会】3 月 29 日(土)30 日(日) 米山悟氏による雪上訓練
- ・【山の天気ライブ授業】猪熊隆之氏、2026 年 1/17 机上講習、1/18 実地授業（金華山候補）
- ・【登山計画の立て方・読み込み方】登山学校との共同開催 2025 年 11/30
- ・【安全登山教室】支部 HP に情報提供検討

16. ドキュメント映画【小屋番ハヶ岳】（高橋）

- ・パルコで舞台挨拶に参加。

17. インド・ヒマラヤの本を 120 周年記念出版として、東海支部から本部に推薦する。

出席：高橋、今津、高松、石原、星、岩月、清水、山下、諸岡、(ZOOM) 金谷、稲葉、和田、鈴木慎吾

【2025 年 4 月常務委員会】

日時：4 月 23 日(水)19 時 ZOOM との並行開催

1. 支部長挨拶（高橋）

- ・新体制になり新しいメンバーで始まりますが、よろしくお願いします。

季節がいきなり夏の様子を呈しています。山に行かれる方は十分な水分補給を。また残雪の山に行かれる方は雪崩等に注意を払って事故の無い様行動して頂きたい。

5 月には総会と夏山フェスタの大きなイベントがあり、総会においては、会員微減の状況にあるので皆さんの忌憚のない意見を伺い会の発展につなげていきたいと思ひます。

夏山フェスタでは山の告知等を通じて東海支部の知名度を上げ、会員獲得の機会として活用、参加協力をお願いします。

2. 総務委員会（今津）

- ・支部員 4 月度 退会：5 名 現況：320 名

- ・総会 5 月 11 日(日)15:00～15:30 (14:30 受付)総会後予定①草野君報告 ②平川理事の講演 ③新 HP 説明・デジタル支部報について 17:30 頃まで その後 懇親会(於：シルクロード)

- ・葉書、グーグルホームにて案内中 必要定足数 160 各委員会におかれましては出・欠(委任状提出)の返送を必ず行っていただけますよう周知をお願いします。

- ・ゲートタワービル最上階献血ルームにて東海支部コーナー設置、(5 月 3 日～5 月 29 日)

- ・夏山フェス協力人員について十分な人数が確保できた。協力に感謝します。

- ・デジタルメディア委員会作成の HP について 4/1 より新旧並行して公開中。

山行システムについては移行対応中。5 月総会にて説明の後 6/1 より新 HP に 1 本化となる予定。

新 HP α 版の公開、新ドメインの購入済・各委員会は本部 Google アカウント登録進める。

- ・その他については資料通り

- ・次回常務委員会は 5 月 28 日(水) 19 時

3. 支部友委員会（金谷）

- ・天候に恵まれ山行計画は順調に実施されている。

- ・山行キャンセル料について：山行要領見直しに伴い支部友山行もこれに準ずる。

- ・夏山フェスタでの勧誘も支部友への定着数が減っているのでオリエンテーションにも力を入れ行っていく予定。

*勧誘時、本人の希望に沿った案内の実施をお願いしたい。

- ・その他資料通り

4. 山行委員会（稲葉）

- ・3/24 リーダー会議を実施 13 名出席 積極的な支部山行立案を依頼。

- ・支部山行リーダー参加費の見直しについて。山行リーダーの負担軽減のため、山行参加者へのヒアリングを実施し、夏山山行前頃をめどに検討をしていく。(山行費用・車代等)

*支部友は今のところ変更の予定はない。

5. AMSCA（齋藤絵美子）

- ・次年度会員登録の件

支部から各委員会の委員長を登録していただいているが、変更があれば教えていただきたい。→ 現行を継続する。

6. 猿投の森づくりの会（和田）

- ・5 月 24 日(土)午後 総会開催 (山口公民館)

7. 支部報 182 号案（星）

・7月1日発行予定 原稿締め切り6月末を予定している。

・若い方の活動 同好会の新しい動きなどについて掲載していきたい。

・支部報のデジタル化について支部報編集委員会と共に検討していく。

＊総会の議事以外として支部報の発送を紙媒体か電子とするかについてアナウンスを行う。

8. アルパインクラブ（高橋）

・ゴールデンウィーク中に集中山行予定。

・5月11日 総会当日の午前中に一般初心者向けクライミング体験を実施予定。安全を確保して行うので初心者の方にも是非クライミングの体験に参加して欲しい。

・5/24-25 東九州支部の御在所藤内壁遠征に合わせて交流クライミング予定。藤内小屋 10人予約しているので遊びに来ていただくのも歓迎です。

9. 東海学生山岳連盟（諸岡）

・新歓登山 5/25 御在所中道予定

・6/18 新歓総会（学連定例会日）

10. 登山学校運営委員会（服田）

・8期は後6月を残すのみとなり、第9期についてはカリキュラムが承認されたので HP・メルマガにて生徒を募集中。

11. ボランティア委員会（前田）

・4/19, 4/20、小島山登山道白樫コース整備清掃登山を実施。委員会より13名・関係者・小島山に親しむ会・ボーイスカウト・新聞記者等総勢47名参加。後日の委員会メンバーの感想は概ね良好で今後も機会があれば参加可かと思われる。

12. 写真展実行委員会（岩月）

・今年度は写真展開催が無いため写真教室と写真山行を積極的に行っていく予定。写真教室について：3回/年位 写真山行について：奇数月に実施（基本公募とする）

・写真展の振り返り、反省点、次回への改善点、支部広報活動への活用等。

応募方法について、応募しやすい方法を考えていく。HPへの掲載も視野に入て今後の作品募集、作品の活用方法を考える。

・繰越金については今年度の写真教室等の事業費に当てていく。

13. 確遭難対策委員会（高松）

・登山届は68件内チェックリスト付き61件（G3対象5件審査時点で実施済）

・気象講座は「山のお天気講座」として2025年3月1日に実施。次回は7月13日を予定。

・消防、警察、病院等にお世話になる事故の発生報告を徹底し、また報告しやすい場を設けて事故情報を有効に活用し事故防止につなげていきたい。

14. 技術向上委員会（清水）

・イグルー講習会を3年越しでようやく実施できた。（3/29 - 3/30）雪崩の講習会に参加された方も今回参加されていて氷を切り出すさに積雪層の違いを実感してもらえたのではないかと思います。

・今後の活動として1/17 - 1/18「山の天気ライブ授業」金華山・「登山計画の立て方読み方」講習等、登山学校委員会と共同開催も含めて実施していく。その他登山の様々な楽しみ方を知ってもらいイベントの検討も行っていく。

15. 会計（奥山）

・会計報告について

寄付などいただいた収支は

収入の部3,416,000円 支出の部2,679,000円
繰越金737,000円

事業積立金・遭難対策初動基金そのまま繰り越し、チャレンジ基金 助成金として2件200,000円支出残金繰越。

出席：高橋 今津 前田 金谷 稲葉 鈴木（慎） 服田 星 高松 諸岡 和田 岩月 清水 奥山

ル ー ム 日 誌

—・— 3月 —・—・—・—・—・—

大会議室 / 小会議

1（土） 登山学校机上講習会

2（日） トレッキングクラブ

3（月） 支部友委員会

4（火） AMSCA / TNCC

5（水） アルパインクラブ（青年部）

10（月） 登山学校運営委員会

12（水） 山行委員会

13（木） 自然保護委員会

17（月） 図書委員会・読図会

18（火） ボランティア委員会

19（水） 東学連 / 技術向上委員会

20（木） 正副支部長会議/総務委員会

21（金） 亀の会

24（月） 山行委員会 / 支部友読図会

25（火） 遭難対策委員会

26（水） 常務委員会

—・— 4月 —・—・—・—・—・—

- 1 (火) AMSCA /TNCC
2 (水) アルパインクラブ(青年部)
3 (木) 写真展実行委員会
7 (月) 支部友委員会
8 (火) 支部友ミーティング
9 (水) 山行委員会
10(木) 自然保護委員会
14(月) 登山学校運営委員会
/図書委員会・読図会
15(火) ボランティア委員会
16(水) 東学連 /技術向上委員会
17(木) 正副支部長会議/総務委員会
20(日) 登山学校机上講習会
21(月) 支部友読図会
22(火) 遭難対策委員会
23(水) 常務委員会
24(木) 総務委員会 (合同)

—・— 5月 —・—・—・—・—・—

- 6 (火) AMSCA
8 (木) 自然保護委員会

- 11(日) 東海支部総会
12(月) 登山学校運営委員会
13(火) 支部友委員会
14(水) 山行委員会
16(金) 亀の会
17(土) 猿投の森づくり自然観察会
20(火) ボランティア委員会
21(水) 東学連 /技術向上委員会
22(木) 正副支部長会議/総務委員会
23(金) 亀の会
26(月) /支部友読図会
27(火) 遭難対策委員会
28(水) 常務委員会

会員異動

入会: 河合泰代(17488) 島田誠子(17480)
古野敏彦(17484)
退会: 中野八千代(13769) 木村孝保(7347)
鈴木茂生(12940) 国枝宗央(15863)
杉崎正美(15516)

INFORMATION

【写真展実行委員会からのお知らせ】

1, 写真山行を行います。
・7月21(日)~22(月) 上高地周辺(山研拍)
公募中、希望者は岩月 090-5451-6855
又は増田 090-8421-8077 まで
*9月、11月にも公募山行を予定します。
2, 写真教室について
第1回写真教室 8月7日(木)18時~ 支部
ルーム
講 師 山岳・風景写真家 大島隆義氏
題 名 スマートフォンでの撮影技術を学ぶ
(仮称)
・参加希望者は岩月まで連絡下さい。
・写真展実行委員会は、毎月第1木曜日に開催
します。
令和7年度は、奇数月は昼食会を兼ねて支部
ルーム外で開催、偶数月は支部ルームで写真山
行報告会や写真教室を開催しますので、皆様の
参加及び委員会への入会をお待ちしています。
写真展実行委員会 委員長 岩月邦文

【ボランティア委員会からのお知らせ】

今秋「全国ボランティア支援登山集会」を開
催します。

○日 時: 令和7年 11月15日(土)・16日(日)
○場 所: 東海支部ルーム(予定)及び名古屋
近郊の山(未定)
○内 容: 11月15日(土)
13:30 受付、14:00から開始
・各支部報告(東海支部と参加各支部)
・講演(予定)とディスカッション
・終了後、希望者で懇親交流会
11月16日(日)
・名古屋近郊の山で、ブラインド登山(視覚
障がい者との登山)を実施(希望者が参加)
○対 象 ボランティア支援登山を現在実施、
もしくは計画されている各支部の皆様と、東
海支部の皆様

詳細は本稿のP13を参照ください。

ボランティア委員会 委員長 前田隆久

編集後記

無事総会を終えた。新たな委員会の名があ
るように、組織は常に変化して形を変えて行
く。この力を絶やさない岳人の組織づくりを
今年も願いたい。 星 一男

SINCE 1975
mont-bell

地球と遊ぶ、時間をつくろう



登山用品は、お近くの「モンベルストア」へ！ 最新情報は
こちらから

名古屋栄店	052-228-1840
豊橋店	0532-21-8650
長久手店	0561-64-2605
ららぽーと名古屋みなとアクルス店	052-659-2708

株式会社 **モンベル** www.montbell.jp

法務相談は行政書士にお任せください！

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます
遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com 久屋大通駅 徒歩1分

**「東海支部報」では、
広告を募集しております**

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは
jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**
コンサルティング事例集

オフィスに關するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業
本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

 **印刷全般**
ご相談ください

(有) アジマプリント

〒462-0015 名古屋市中区中味錦二丁目438番地
TEL(052) 901-1256
FAX(052) 901-2278
E-mail: ajimaprint@giga.ocn.ne.jp